

語林類葉

十九

三三函	二架	三六九	類	和書
-----	----	-----	---	----

八函	二架	三六九	類	和書
----	----	-----	---	----

内閣文庫	
番號	和 36719
冊數	20 (19)
函號	208 29

らあろろ

新刊



Kodak Gray Scale

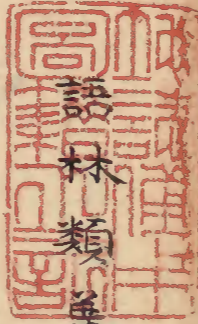
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak



櫻山文庫



語林類集卷之十九

賜蓋文庫

清々濱臣輯

新宮城書藏

良行

らりゆ

一言

等。一人ノウヘニタイヘルアリ

万五八十許良ニサヤリ又〇同 同 同 絶綿良ハ

氏〇同九ニ處女等買〇古今序 〇

〇同意ニヤニツイ多クニモのモ人ヨクニ

了後〇境玉クツ 〇

長伊勢 〇拾遺雜記世に傳れ

らぬ。○うけろ日記 ちりつゝる。ねの枝 苔

コケラ ○ 万葉新取 蘿生松

拾遺物名 柯トイハ 同シ

一秋 祓てうしうしうさきい あひるちうさきもつまそひ

散木

あちさの花のまきい ちつれてちさうめさねけ

同

あらしの花のまきい ちつれてちさうめさねけ

○ 音トモ 丈木 = アリ

夜トイヒカケタリ

二言

うち 埒

宇勢保 参使 兵部丞 ちり馬にのりてうちた

のけまき 和名馬埒 世間え良知

栗らひ

西要抄 ちり馬にのりてうちた

ホトラヒ 中ラヒ

三言

らる 領

ちり馬 ちり馬

らる 羅蓋

竹取まゆむらさきうららめしきうららめしき

^{ヲラシ}螺鈿

渡東屋 青き巻らてしのきほあまのふん

らんが 乱巻

万代袂 一おまめらんがのほけさゆき風流の影に

恒徳の 〇拾遺雜秋 天禄四年五月五日 園遊院の

みう一品まは後世まをすらんが

続世継 まいひ

とまむえきををまひりてのまもるにまのり

目録

らんが 万華ニ即券ヨリミミコト入ナシ

大木せしきまをすらんが

水輪しきまをすらんが

あまのまをすらんが

らんが

宇都保 祭儀 山も野もいふは花若○同 巻末

ら〜

和名

らんを

中務日記らんをのりきしる(り)はるる

藍^{ラニ}藻^{ハキ}巻

盛衰記十一白川院御宇二二康暦元年ノ巻一

一ト云奥京中ニ文満ヲ十歳以前ハハ巻十
カ八九ハ取失ハレケレハ○

りの部

一言

三

拾

○ 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

二三四

り 龍

り 取 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち 〇

松口

続世継 原、あゝに不 ぶに 寺のまゝ 利口あそあ

らき くらきうい けのそと あいひぬ 〇 浴、マ、コ、シ、ヤ、ク

ナリ

自

三葉

悪路日記 原、あゝに不 ぶに 寺のまゝ 利口あそあ

原、あゝに不 ぶに 寺のまゝ 利口あそあ

リニタリ

源野合

原、あゝに不 ぶに 寺のまゝ 利口あそあ

原、あゝに不 ぶに 寺のまゝ 利口あそあ

原、あゝに不 ぶに 寺のまゝ 利口あそあ

〇

源野合

原、あゝに不 ぶに 寺のまゝ 利口あそあ

原、あゝに不 ぶに 寺のまゝ 利口あそあ

して〇

十言

中務門侍日記

玉佩して玉をくしめきこつてけらきり
をけきこつてきこもめりうきをけけきり
ふかしのきこつてきこもめりうきをけけきり
さいぬめりうきをけけきりうきをけけきり

九言

龍頭鶴首

翠苑 七の記

るの部

二言

留主

玉葉神祇建長七年十月春日社に行幸ありし
時けるるにたふして還侍ありしと云ふに増鏡
烟ま
はけるるのほかに二条社にありき

るわ

竹取龍の御まゝのるわめて〇渡 松姫
るかにふれ
てあほうき

類伴

今昔廿五^{十三} 其一一 廣クモテ

君 玉鬘幼名

源 玉鬘

五言

類 玉鬘

○ 玉鬘 玉鬘もよひるわらわくぬけてえりき

○

ルリノ天蓋
ルリノトホワ
ルリノトヒラ
ルリノ杯
ルリノ盃

玉鬘池

拾遺草 和名波田十七年奇

玉鬘池に夏みさをいへてうしよみさをうむ池

○ 続世継 玉鬘のついでに 玉鬘のついでに 玉鬘のついでに 玉鬘のついでに 玉鬘のついでに

玉鬘のついでに 玉鬘のついでに 玉鬘のついでに 玉鬘のついでに 玉鬘のついでに

年方再之年 天蓋用 瑠璃御蓋

新後撰 後類

玉鬘のついでに 玉鬘のついでに 玉鬘のついでに 玉鬘のついでに 玉鬘のついでに

史本 般富門院大輔

玉鬘のついでに 玉鬘のついでに 玉鬘のついでに 玉鬘のついでに 玉鬘のついでに

○ 増鏡 北野雪 玉鬘のついでに 玉鬘のついでに 玉鬘のついでに 玉鬘のついでに 玉鬘のついでに

れり部

三言

靈芝

芝

記畧天長四年八月乙巳皇太后宮亮心五任下大
 枝朝臣總成獻芝草四株其中大者長二尺許其
 為狀也紫丹色本一而末二枝往々有節々間一
 寸許境曲不直竅未差白絲成曰典侍迷子女王
 禁中宿所板敷下生。同天長七年八月乙卯門
 督真野王上芝草一莖。

療治

葉亮 一、一寸白たあそ一ほほしてまはるひのまはるひち
まはるひちまはるひち。

まろい果

まろい果 葉亮
まろい果まろい果。まろい果まろい果。
まろい果。

田言

例様。平生ノマノ意也。

竹取がくやま決まもるんあこまのまのにまのん
まのん。

まのん

春曙七、庚道、道理に精ま、枕冊子は

まのん
まのんまのん。まのんまのん。まのんまのん。
まのんまのん。

まのん

葉亮 十月、厚今、保人に、まのん。まのん。

一人十〇

れきさく

拾遺外

史木山

史木山の... 史木山の... 史木山の...

れん中

大細... 室に...

中略... 侍日記... 苑山... 大納言... 史木山... 史木山... 史木山...

五言

れいの神

神... 史木山...

史木山日記... 史木山日記... 史木山日記...

六言

冷泉院

花若菜... 帝王系... 弘仁十四年四月十一日遷

冷然院十七年讓位於皇太子天曆八年三月十

一日改冷然院為冷泉院... 史木山...

史木山見

十言

此の世をさしめしむるは 月水

菊元

○ 菊元 菊元

こと九月をさしめしむるは ○ 袂衣三上三上 入てお人のあ
ふ事しむるは ○ 同同 事しむるは ○ 同同 事しむるは ○ 同同
さめしおんしむるは ○

此の世をさしめしむるは 夢妊也

菊元 月水
廿四

ろの部

一言

櫓

和泉公集

ろもおまをさしめしむるは ○ 袂衣三上三上 入てお人のあ

古今秋上

久方のおまをさしめしむるは ○ 袂衣三上三上 入てお人のあ

此の世をさしめしむるは ○

二言

ろく 禄

玉篇禄 賞物也 ○ 竹取志ろくにろくいゆゑままろく

○

三言

六座

讚岐日記 花山院の寺にちきり舟を入送る
一条院にさしつてきり舟をいへるくさる
つらき舟をいへる

録事

江次第二 大臣大饗 定録事 廿云 勸酒於上

宮座差共人為録事也

ろくろ

宇部保 春日詣 清つきもろくろたもきて ○和名
造作具 鞆轡 ○宇部保 ^{吹上}ろくろもわてび
きもあかーもーてもー ○和名 誕

ろくろ

源 ^{若菜} ○宇部保 ^{高開}

共

路養

類史八弘仁十四年十一月云々又運德紀至基
西国雜物擔夫谷給路養

四言

六宗

江次茅坊三延曆廿一年講用六宗僧所謂華嚴
天台法相三論俱舍成實等宗也

六言

六条家

家中子三五十一

六波羅棟

盛衰記一何事モ一一ト云テケレハ天下
ノ人皆學之○

七言

ろくろのつらみ 六衛府

竹取ろくろのつらみ 二千人の入る○

